

資料編 考古2

縄文後期・晩期

本巻では縄文時代の後期から晩期を取り扱っています。

本県はこの時代の遺跡や遺物に恵まれています。弘前市十腰内(2)遺跡・つがる市亀ヶ岡遺跡・八戸市是川中居遺跡は古くからその名が全国に知られており、近年では弘前市大森勝山遺跡が史跡に指定されたほか、八戸市風張(1)遺跡から出土した合掌土偶は国宝、野辺地町有戸鳥井平(4)遺跡出土の土偶やむつ市二枚橋遺跡(2)出土の土偶・土面などが重要文化財に指定されています。

後期は、多数の遺跡が発見されており、大規模な環状列石や再葬土器棺墓



弘前市大森勝山遺跡の環状列石と岩木山
写真提供 弘前市教育委員会
発見例の少ない縄文時代晩期の環状列石

資料編 中世3

北奥関係資料

本巻は既刊の中世資料編に盛り込まなかったすべての文献資料(文学資料等は中世4に収録予定)を収録したものです。時代は奥州藤原氏三代秀衡死没の文治3年(1187)から天正18年(1590)の奥羽仕置までの資料を基本とし、中世情報の含まれる近世・近代作成の資料からも採録しました。

本巻の刊行により、青森県域を中心とする北奥の中世関係資料が網羅されたこととなります。本巻採録資料の中

など特徴的な遺構が検出されています。

晩期の亀ヶ岡遺跡や是川中居遺跡に代表される亀ヶ岡文化は北海道渡島半島から東北地方一円に広い文化圏を形成しており、この文化の影響を受けた土器などは日本列島各地で見つかっています。

本巻はこの時代の県内の主要な遺跡について全ページカラーで写真や図版を多数掲載して紹介するとともに、遺構や遺物などで重要な項目を解説しています。

本巻の構成

第I部 時代概説

土器の編年や、集落の移り変わり、生業などの項目を通じて弥生時代へ続く縄文時代後期・晩期について解説しています。

第II部 遺跡編

第1章を後期、第2章を晩期に分け、青森市小牧野遺跡や外ヶ浜町宇鉄遺跡、六ヶ所村大石平(1)・(2)遺跡などの県内の代表的な遺跡約150について遺跡ごとに紹介しています。

第III部 各論

第1章遺構では、住居・墓・環状列石などについて、第2章遺物では、土器・石器・骨角器・木製品などの考古資料について解説をしています。

氏関係資料を集めたこと、これまで未紹介だった重要な松前関係資料を採録したこと、中世の霊山十和田と十和田信仰を知る資料群を取めたことです。

本巻の構成

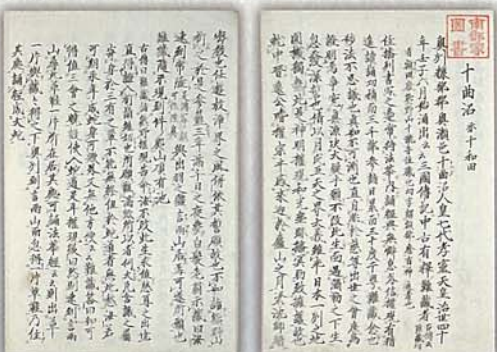
- 第I部 南部・安藤・津軽・浪岡北
畠・松前氏関係資料補遺
- 第II部 諸家資料
- 第III部 日記・記録・法令関係資料
- 第IV部 宗教科関係資料



五戸町薬師前遺跡の土器棺出土状況
写真提供 五戸町教育委員会
出土した土器棺と貝輪、イノシシ牙製首飾は重要文化財



むつ市二枚橋遺跡出土の土面(重要文化財)
所蔵 むつ市教育委員会、写真提供 青森県教育庁文化財保護課
一つの遺跡では全国最多となる20点が出土した。



「来歴集」所収 「十曲沼」
もりおか歴史文化館収蔵
元禄12年(1699)3月 十和田伝説の古態を伝える資料